

(病院 HP 用)
令和元年 10 月 11 日

告知

愛知学院大学歯学部ヒト細胞・組織・遺伝子・疫学情報倫理委員会の通知に基づき、告知を行います。

記

記 課 題 名 :

口腔癌および口腔白板症における微小免疫環境の変化

実施責任者 :

愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座 教授 長尾 徹

情報管理責任者 :

愛知学院大学歯学部歯科放射線学講座 教授 有地榮一郎

実施分担者 :

顎顔面外科学講座 講師 後藤 満雄

顎顔面外科学講座 講師 宮部 悟

顎顔面外科学講座 大学院生 近藤 祐太郎

愛知医科大学 耳鼻咽喉科学講座 教授 小川 徹也

愛知医科大学 研究創出支援センター 教授 吉川 和宏

愛知医科大学 研究創出支援センター 准教授 鈴木 進

口腔病理学講座 教授 前田 初彦

本研究の意義、目的、方法:

近年、再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌に対して nivolumab が新医薬品承認を受け、口腔癌も免疫療法の対象領域となりました。しかしながら、治療効果を示す頭頸部癌は 20-30%であり、今後さらなる治療効果の改善のため、癌微小免疫環境の解明に期待がかかっています。

本研究は、口腔癌および口腔白板症の間で組織内の PD-L1 という遺伝子の発現や、免疫抑制環境を比較検討し、発癌にかかわる免疫環境の変化を明らかにすることによって、治療効果の予測等に役立つバイオマーカーや、新たな免疫治療薬を開発することを目的としています。

愛知学院大学歯学部附属病院口腔外科第二診療部にて、2004年4月1日から2019年9月30日までに口腔扁平上皮癌または口腔白板症と診断され、組織生検もしくは外科的切除を行った患者さんを対象としています。

過去に手術によって取り出された組織を使うので、今後新たに組織、血液等のサンプルを採取することはありません。したがって、研究による身体の危険性は全くありません。

また、下記の診療情報を診療録より取得・収集し、データ解析を行います。

- ・患者の背景因子（年齢、性別、喫煙歴、癌の組織型、併存症や全身状態）
- ・病理組織検査の所見
- ・治療の開始時期および方法
- ・術後経過 予後 など

本研究では、患者さんのカルテを閲覧させて頂き、必要な項目のみを抽出して上記の解析に使用させて頂きます。患者さんが追加する検査はありませんし、一切余分な費用もかかりません。

本研究は、愛知医科大学耳鼻咽喉科学講座との共同研究です。当院で保管している手術組織を、愛知医科大学で解析を行います。

期間：

2022年3月31日まで

個人情報の取り扱い：

研究対象者には全て番号を振り付け匿名化し、連結表を作成します。

他のコンピュータと切り離されたコンピュータを使用し、外部記憶装置に記録させ、そのメディアは鍵をかけて厳重に保管します。

協力いただいで得られた研究の成果は、個人情報を厳重に保護したうえで、学会や専門の学術雑誌で公表することがあります。

研究への参加を拒否する方法：

対象者となる方でこの研究へ参加されない場合には、お手数ですが下記の問い合わせ先にご連絡ください。なお、参加されなくても今後の治療などで、あなたの不利益になることは一切ありませんので、ご安心ください

以上

問い合わせ先

愛知学院大学歯学部附属病院 顎顔面外科学講座 TEL：052-759-2111（代）